



あきたの 地域医療通信

2013年10月 第16号

発行／秋田県健康福祉部医務薬事課
医師確保対策室

今年4月1日に、秋田県と秋田大学が共同で、秋田の医療を支え、また、これから支えていく医師や医学生のキャリア形成、就労環境等をサポートする『あきた医師総合支援センター』の運営を始めました。そこで、本センターの羽瀨友則センター長からお話を伺いました。

センターの役割、目指す目標について

本センターの目的は、秋田県内の医師確保、医師のキャリア形成支援、秋田大学医学部の地域枠学生や秋田県からの修学資金・研修資金貸与者のサポート、女性医師のキャリア支援と環境改善、様々な医師教育プログラムの提供、などです。すなわち、秋田大学医学部附属病院に設置されていますが、そのタスクは、秋田県の医師確保と医師のキャリア形成支援を始めとした様々なサポートにあります。教育企画は、初期研修医・後期研修医・女性医師・専門医などそれぞれの状況に合わせた、細やかな内容です。この教育企画に秋田大学医学部附属病院シミュレーション教育センターを最大限に利用しています。また、女性医師支援、育児支援を目的としたセクションも設置し、着実に増える女性医師のサポートにも力を入れています。



羽瀨友則 センター長

課題と今後力を入れること

1 女性医師支援

現在、秋田大学医学部入学生では、女子医学生が約4割を占める時代になってきました。今後、女性医師が働きやすい環境を作り、キャリア支援を推進することが、県内の医師増加には欠かせない条件です。女性医師が定着すると、おそらくは男性医師の定着率も上がります。これには、育児や保育所の問題、家族・家庭の問題への対応など、行政を含めた協力と共同作業が重要と考えます。

2 医師の地理的偏在化と医師不足の解消に向けた若手医師の定着率向上

大きな命題ですが、現在秋田市では比較的医師が充足されておりますが、それ以外の地区で働く医師にも高いレベルの研修医教育、専門医教育、生涯教育を提供できるように、実地医療に即した教育企画やセミナー開催を継続・拡大していきたいと思っております。このような交流が偏在化解消にすぐに役立つと考えるのは浅薄でしょうが、少なくとも必要だと考えます。一方、本センター主催・共催の初期・後期研修を対象とした熱意のある教育企画が、若手医師の定着や特定の診療科部門の医師不足解消に貢献できるものと考えます。

県内外の医師・医学生へのメッセージ

平成22年国勢調査によると、県別高齢化率は秋田県が日本一(29.6%)のようで、内閣府によると平成47(2035)年には、最も高い秋田県では40.0%を超えて41.0%となると予想しています。また、秋田県はがんの死亡率も高く(24年も1位)、少子化の率も高いです。しかし、日本全体が高齢化していくのは確実で、さらに、がん死亡率の上昇や少子化の問題も日本全体の問題と言えます。その意味で、秋田県の医療は、日本はもとより世界の中でも時代の先端を進んでいくはずで、“先進医療”と言えます。“秋田の医療を上手く回す”ことは、ある意味、大変チャレンジングなテーマです。私どもは、広く医師サポートや教育企画を進めていき、秋田の医療を担う医師を助けます。どうぞ、秋田での医療に挑戦してください。



センターパンフレット

今まで(半年)の取組と成果



シミュレーション教育センター外観

1	附属病院シミュレーション教育センター内にセンター事務部門を開設 専任講師2名、事務職員3名が着任
2	ホームページを開設 Facebookを利用して活動内容を逐次リアルタイムで発信
3	『ドクターナビ』を開設 県内はもとより、他県在住で県内出身の学生や医師のキャリアアップに関する相談
4	女性医師支援の窓口を開設し、相談支援開始 女性医師のキャリア形成支援、結婚・出産・子育てなどの生活支援、パートナーも含めた医師、 医師家庭（男女を問いません）の支援・相談
5	県内の優れた指導医の紹介コーナーをホームページに設置、掲載を開始
6	秋田大学医学部の地域枠学生や秋田県からの修学資金・研修資金貸与者の支援
7	以下の医師、初期・後期研修医や医療従事者を対象とした教育企画、セミナーを主催や共催 ① 専門研修に向けたキャリアナビゲーション&スキルアップセミナー（後述参照） 初期研修医を中心に秋田県内での後期研修を促進する目的で、延べ180名以上参加 ② 地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナー2013（後述参照） 自治医大生・自治医大出身医師・地域枠学生をサポートする目的で、33名参加 ③ あきた地域がん医療説明会（秋田ビューホテル、シミュレーション教育センター） 次世代のがん医療を担う県内外の医学生を対象に秋田県のがん医療を解説、延べ50名参加 ④ 秋田県農村医学研修講座・医学シミュレーション教育研修会（シミュレーション教育センター） シミュレーションを用いた医師・看護師など医療従事者の教育セミナーで、延べ144名参加 ⑤ その他 中心静脈カテーテル講習会など 初期・後期研修医・若手医師などを対象とした実地医療に即した研修会やセミナーを随時開催
8	東京、仙台などで行われる初期・後期研修説明会に参加し、秋田県内での研修を説明、勧誘

活動の詳細や新規情報はホームページ (<http://akitamd-support.com/>) をご覧ください。

皆さんをサポートするスタッフから

コーディネーター
おおしま しげ とし
大嶋重敏 先生

私は、年齢46歳になりますが、秋田以外の場所で暮らしたのは、東京での1年間の大学受験浪人時代と、アメリカでの2年半の留学時代のみですので、人生の95%は秋田にどっぷりつかっていると云えます。そんな私でも、まだまだ秋田には、こんなきれいな景色があったのか！とかこんなおいしいものがあったのね！という発見があります。秋田は奥深いと感銘する限りであります。この秋田の良さを医療面からみなさんにお伝えしつつ、一緒に秋田の医療を盛り上げていきましょう！というのが、私たちの活動のコンセプトです。秋田でもできる、ではなく秋田にしかできないことをどんどん発信していきたいと思っていますので、よろしくお願ひします。

コーディネーター
もり としき ゆう き
守時由起 先生

「地元の大学を卒業したけれど、地元で研修しなかったから、地元の医療がさっぱりわからない」と、友人の医師から聞いたことがあります。あきたでも同じです。自分の立ち位置を知るためにも、あきたの医療に実際に携わってみて、そして他県、他国の医療と見比べて、あきたの医療はどこでも通用するを知っていただきたいと思います。研修できる内容も実はけっこう豊富です。

あきたでは1次から3次の医療機関の役割が明確で、救急搬送の際に行き先が決まらないケースは少ないです。医療従事者、患者さんともに優しく朗らかな方が多く、仕事上のストレスは比較的少ない環境かと思ひます。我慢強くて親しくなるまではあまり話をしてくれない患者さんが、数年来のさまざまな症状を笑顔で語ってくれた時には、信頼の兆しと嬉しく思うと同時に、主治医として身の引き締まる思いがします。患者さんから時折いただく感謝の言葉で、医療に携わる皆の心が温かくなります。あきたの医療の魅力を実感していただければ幸甚です。



左から大嶋先生、守時先生

専門研修に向けたキャリアナビゲーション&スキルアップセミナー

平成25年8月2日(金)、3日(土)に、秋田県臨床研修協議会とあきた医師総合支援センターが共催し、県内の研修医等を対象に、「専門研修に向けたキャリアナビゲーション&スキルアップセミナー」を開催しました。

1日目は、秋田大学と県内臨床研修病院による専門研修に関する説明会や、亀田ファミリークリニック館山の岡田唯男先生による「ジェネラリストというキャリアパス」をテーマとする講演会を行いました。

2日目は、シミュレーション教育センター（秋田大学医学部附属病院）を会場に、専門研修へのキャリア支援を目的に、各種専門診療に関する様々なスキルを学ぶセミナーを開催しました。

参加者からは、「手技を体験して、知識を深められ、今後の研修に役立つ」「フィードバックがすぐであり、丁寧な指導が受けられた」などの感想をいただきました。



特別講演



気管支鏡セミナー



外科セミナー

地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナー

平成25年8月17日(土)に、自治医科大学生、秋田大学医学部生及び県内で活躍する自治医科大学卒業医師等を対象に、「地域に寄り添う医師・医学生キャリアアップセミナー」を開催しました。

このセミナーは、秋田の医療に関心を高めるとともに、医師・医学生間のネットワークを構築することにより、秋田の医療に従事する熱意のある医師を育成するため、秋田県、自治医科大学医学部同窓会秋田県支部、あきた医師総合支援センターが共催し、初めて開催したものです。

地域医療のスペシャリストとしてマスコミでもお馴染みの国保名田庄診療所の中村伸一先生のご講演や、参加者による地域医療等をテーマとする活発なグループ討論が行われました。参加者からは、「地域とのかかわり方、協力の仕方が参考になった」「どのような事が必要とされているのかよく分かった」などの感想をいただきました。



グループ討論

イベントカレンダー

開催月日	名称	対象	場所	お問合せ先 (団体名/電話/FAX)	
10月	25日(金) ~26日(土)	第7回レジデント・スキルアップキャンプ	研修医	ホテルサンルーラル大湯(大湯村)	秋田県臨床研修協議会 TEL:018-860-1410 FAX:018-860-3883
	26日(土)	第5回医学生スキルアップセミナー	医学生	ホテルサンルーラル大湯(大湯村)第一会館本館(秋田市)	
11月	30日(土)	全国シンポジウム 『日本の国情・2次医療圏の実情を熟考して、理想的医師・医療者育成教育の展開を考える2013』	医療従事者、 教育関係者、 医学生 他	秋田キャッスルホテル(秋田市) 4階 放光の間	秋田大学医学部 総合地域医療推進学講座 TEL(FAX):018-884-6226

指導医メッセージ



秋田大学医学部附属病院
整形外科
杉村 祐介先生



こんにちは。私は今年で医師5年目です。私は岩手県出身で、大学から秋田県にきました。初期臨床研修は秋田赤十字病院でお世話になり、研修後、秋田大学整形外科に入局しました。

卒業後も秋田県で研修した理由は、県内には学生時代から交流も深い先輩医師が多くいたことです。自分は学生時代あまり先輩医師とは交流がなかったと思っ

ている人も、実は学生実習で1日だけお世話になったときの先生だ！など働いてからでも意外に多いものです。様々な意見があるとは思いますが、やはり学生時代からの繋がりというものは、実際に医師として働くようになってからかなり重要なポイントになります。研修医のメリットとしては、1つの科の研修期間は短いので、「まずは人間関係の構築から…」などという手間は省けます。相談しやすい環境なので研修の効率も上がります。最近は後輩医師も増え、様々な科にいるので、緊急時に電話でちょっと相談なんてこともあります。

今回は県内大学出身者としての立場で書きましたが、他の考えもあると思いますので、皆さん是非皆さんの先輩たちに聞いて相談し、考えてみてください。

そして秋田県での研修を選択してくれたら嬉しく思います。

研修医メッセージ

雄勝中央病院
平松 翔先生



雄勝中央病院は、湯沢市・雄勝郡（医療圏人口約7万人）の中核病院としての役割を担っています。初期研修医は救急患者へのfirst touchとcommon diseaseへ

の基本診療を学ぶことができるとともに豊富な臨床経験を積むことができます。さらに、責任感をもって実践的な研修が行えるのも当院の研修の良さだと思います。

また、先生方はもちろんのこと、看護師等 staff も忙しいながらも優しく丁寧な指導をしてくださいます。首都圏の大学を卒業して研修させていただいてる私にとって、ここ湯沢は、都会とはまた違い自然は豊かで、仕事終わりに美味しいお酒が飲めるなどリフレッシュもでき、研修するには最適な環境だと感じています。



北秋田市民病院

〒018-4221 秋田県北秋田市下杉字上清水沢16番地29
TEL:0186-62-7001(代表)

当院は、秋田県内陸北部に位置する北秋田市にあり、医療圏人口3万人(北秋田市・上小阿仁村)の健康と命を預かる地域中核病院です。前身である北秋中央病院から80年の間、長く公的医療機関として地域に根ざした医療を提供しています。

平成22年4月には公設民営として県立北欧の杜公園の入口に移転し、病院名も改めてリニューアルオープンしました。現病院は、21の診療科、病床数320床(一般272、精神40、結核4、感染症4)を有し、救急告示病院・へき地医療拠点病院・災害拠点病院などの指定を受け、260名のスタッフがアットホームな雰囲気の中、生き生きと働いています。

また、北秋田市は、森吉山や米代川を始めとする大自然、綴子大太鼓など伝統文化、更に最近注目を集めている「バターもち」など食文化も充実。病院のすぐそばには大館能代空港(車で5分)もあり、関東圏と結ぶ県北の空の玄関ともなっております。

最高の療養環境及び最新の施設設備のもと、笑顔を大切にスタッフとともに、地域医療の最前線で一緒に汗を流してくれる仲間を求めています。「杜と祀りの郷北秋田市」へ是非お出でください。



… お問い合わせ先 …

E-mail: ishikakuho@pref.akita.lg.jp Tel.018-860-1410

秋田県健康福祉部医務薬事課 医師確保対策室 〒010-8570 秋田市山王4丁目1番1号

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。